



グリーンポトスニュース

33号：2000年5月

一雨ごとに、木々の緑もまぶしくなり、一年の中でも一番すごしやすく、散歩にもいい季節ではないでしょうか。しかし、足や腰が痛くて、思うように動けない人もみえるのではないのでしょうか。そこで、今月の話題は『神経痛』です。

神経痛

神経痛を引き起こす原因にはいろいろあります。坐骨神経痛、三叉神経痛などは、骨、筋肉などによる圧迫などが原因と考えられています。

神経痛の中でも厄介なのが帯状疱疹後神経痛です。これがなぜ、厄介かと言うと、病気が治った後も痛みが続くのです。帯状疱疹は、水疱瘡のウイルスによって引き起こされます。水疱瘡に罹った後、そのウイルスが身体の神経節に潜んでいて、身体の調子が崩れた時にウイルスが再び活動するのです。

帯状疱疹は、水疱瘡と同じような水疱を作ります。帯状疱疹と水疱瘡の大きな違いは、痛みです。水疱瘡にはほとんど痛みはありません。ところが、帯状疱疹は、水疱ができる前から痛み始め、時には、水疱が消えた後も痛みが続くことがあります。これは、帯状疱疹のウイルスが、神経特に交感神経と呼ばれる神経に障害を与えるためです。

現在、この帯状疱疹後神経痛に対する最良の治療は、ペインクリニックで行う神経ブロック療法です。神経ブロック療法は、主に交感神経をブロックすることにより、血行を改善して痛みを軽減していくのです。帯状疱疹と診断されたら、できるだけ早い段階から、神経ブロックをすることをお勧めします。早期から神経ブロック療法をすることにより、疼痛が抑えられるからです。

坐骨神経痛や三叉神経痛に対しても、この交感神経ブロックが試みられています。痛みは疼痛神経を伝わるものと交感神経を伝わるものとが知られています。神経ブロックはこの両方を遮断できる利点があるのです。

交感神経を遮断することにより、神経を休め、血行を改善し、筋肉をほぐして、痛みを治療していくのです。神経痛に悩んでいる方はかめざわクリニックにご相談ください。

